

平成25年度第3回愛知県周産期医療協議会
議 事 要 約

日時：平成26年3月20日（木） 午後3時から午後5時

場所：名古屋第一赤十字病院 東棟2階 内ヶ島講堂

●委員

出席者：飯尾委員、石田委員、一木委員、岩田委員、上村委員、岡田委員、小口委員、可世木委員、加藤（紀）委員、加藤（有）委員、鬼頭委員（代理 大城先生）、小山委員、近藤委員、榊原委員、志村委員、杉浦委員、鈴木委員、田中委員、寺澤委員、西村委員、早川委員、二村委員、丹羽委員、古橋委員、北條委員、松澤委員、松本委員、宮田委員、森川委員

欠席者：木村委員、小谷委員

●事務局

出席者：愛知県健康福祉部医務国保課長、愛知県健康福祉部医務国保課主幹、名古屋第二赤十字病院第二新生児科部長、名古屋第二赤十字病院第二産婦人科副部長

●オブザーバー

出席者：家田先生、今峰先生、大野先生、河井先生、鈴森先生、中島先生、林先生、樋口先生、松原先生、山本先生、横井先生、和田先生

欠席者：篠原先生、関谷先生

司会者：名古屋第二赤十字病院第二産婦人科副部長

議長：二村会長

1 開会

2 二村会長挨拶

3 議事

1. 愛知県周産期医療情報システムについて

資料No.1-2、愛知県周産期医療情報システムに使用する携帯電話端末の機種変更についてだが、端末の切り替えを3月18日の午後ですでに行っている。この時間を過ぎてからは、旧機種のシステムの利用や通話はすべて停止している。旧機種に関しては、名古屋第一赤十字病院の事務局まで郵送をお願いしたい。

【質疑応答等】

- ・愛知県周産期医療情報システムについて、現在各周産期母子医療センター及びNICU設置病院（聖霊病院）に配付しているiPhoneについては、今説明があったように、新しい端末に機種変更が行われた。すでに今週の17日には届いているかと思う。古いiPhoneを持参いただきありがとうございます。本日持参いただかなかった分については、資料No.1-2、1枚目の関係各位、愛知県周産期医療協議会の会長名で、「愛知県周産期医療情報システムに使用する携帯端末の機種変更について」という文書を送付させていただいている。これについて、最後一段にもあるように、古い機種については記載してある方法で返却をお願いしたい。今日お持ちいただけなかった周産期医療施設については、お手数だが3月26日に到着するよう名古屋第一赤十字病院企画課内の愛知県周産期医療協議会事務局まで郵送いただくようお願いする。この

i-Phone についてはリース物品であり、返却されない場合、最後に書いてあるように違約金が発生する事もあるので、26日までに完全回収できるようお願いしたい。もうひとつ、資料No.1-3について説明させていただく。今回機種変更した事により、以前の古い i-Phone から空床情報を登録されていたところもあると思う。それについては入力用アプリが事前登録できていないので、資料No.1-3にある操作方法で、アプリのダウンロードをお願いする。なお、資料No.1-3、定期入力のアイコン設定方法の1番、メッセージが送られるのでタップしてくださいとあるが、このメッセージというのは、今回のアプリのダウンロード用メッセージで、3月24日に送られるので、それからこの流れに沿ってやっていただきたい。

2. 平成25年度専門相談研修会の報告と次年度の事業計画について

(1) 実施施設

今年度実施した専門相談研修会については資料を参照のこと。

(2) 平成26年度の開催予定

平成26年度の担当施設は、尾張西部医療圏（一宮市立市民病院）、海部医療圏（海南病院）、西三河北部医療圏（トヨタ記念病院）、東三河北部・南部医療圏（豊橋市民病院）、名古屋医療圏・尾張中部医療圏（名古屋市立西部医療センター、名古屋第一赤十字病院）の6施設になっている。

名古屋第一赤十字病院が平成26年5月10日に開催を予定している。残りの病院も予定が決まり次第、事務局にご連絡願いたい。

【質疑応答等】

特になし

3. 平成25年度周産期医療関係者研修会（新生児心肺蘇生法講習会）の報告と次年度の事業計画について

(1) 実施実績

総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターにて実施する（年間5回）。1回につき会場費、講師料など10.4万円の予算（合計52.3万円）。各施設にて企画し、カバーする地域医療圏を対象に実施する。今年度実施した新生児心肺蘇生法講習会については資料を参照のこと。

(2) 平成26年度周産期医療関係者研修会（新生児心肺蘇生法講習会）の事業計画

来年度、新生児心肺蘇生法講習会事業は52.3万円（10.4万円×5回）の予算額。各総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センターにおいては、計画的に実施願いたい。

(3) 平成26年度の開催予定

平成26年度の開催予定は未定となっている。予定が決まり次第、事務局にご連絡願いたい。

(4) 新生児心肺蘇生法インストラクターの名簿について

名簿に関して更新、変更等があれば、次回協議会時までに事務局までご連絡願いたい。

【質疑応答等】

- ・インストラクターについては平成25年、ちょうど1年前くらい前の表なので、その後資格を取得した方がおられたら事務局まで連絡をいただきたい。できる限りリアルタイムの情報がいいと思うので、願います。

4. 平成25年度愛知県周産期医療調査・研究事業の報告及び中間報告と次年度の事業計画について

【愛知県における HTLV-1 母子感染の実態調査】

名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	杉浦 時雄
名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	加藤 丈典
名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	長崎 理香
名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	伊藤 孝一
愛知県産婦人科医会会長（星ヶ丘マタニティー病院）		近藤 東臣
愛知県産婦人科医会理事（若葉台クリニック）		鈴木 正利

今回調査に協力いただきありがとうございました。今回の結果で初めて愛知県における HTLV-1 の陽性率というのが分かった。資料をご覧ください。表1、回答率が70%くらいで、実際のスクリーニングでの陽性率が0.24%、その中でウェスタンブロットまでやって確実に陽性にまでなった人が、0.07%、判定保留でのPCRが認められたのが5例で、実際に見つかったのが1例という事で、非流行地域だとウェスタンブロット判定保留でも、ほとんどが実際にやると陰性だという結果になった。ざっくり言うと愛知県で年間50例くらいのキャリアの妊婦がいるんじゃないかという推定になる。引き続き厚生労働省の板橋班の研究も進んでいるので、協力をお願いしたい。

【質疑応答等】

・次年度も引き続きやる予定か。

→次年度も引き続きやらせていただく予定である。

【愛知県における妊娠関連脳卒中および妊産褥期高血圧管理に対する実態調査】

名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター長	古橋 円
大野レディスクリニック	院長 大野 泰正

前回中間報告をさせていただいたが、お手元にある冊子だが、最終報告書ができたのでご覧ください。内容だが、前回の中間報告では今回の調査を含めて合計8年間の愛知県の分娩施設の子癩とか脳卒中のデータの話をしてある。その後に色々なアンケートを配っていて、15ページ以降のところにあるかと思うが、色々なクエスションの表を見ていただければいいかと思う。これは3年前の調査の時にも、一部似たようなアンケート調査をしていて、同じアンケートを取り直したというのものもあるが、16ページ以降だが、分娩の最中に血圧の管理がどのようにされているかというアンケート調査である。入院時に血圧を測定するか、それを医師に報告させているかというのが続くが、クエスションの中で、Q1が今回行った調査でQ1'（ダッシュ）が3年前に同じようなアンケートを取った時の話である。入院時はほとんど血圧測定がされていて、Q2はその血圧の値を医師に報告するかという事だが、報告をスタッフに任せているというのが13%という事だが、3年前は21%あるという事で、改善はされている。Q3は分娩のI期からII期に血圧を測定するか、そしてQ4はそれを医師に報告するかという事だが、やはりQ4を見ていただくと、報告するかしないかスタッフの判断に任せるというのが15%ある。3年前は23%程度だったので少し改善傾向にあるが、ここはやはり問題になっていて、2014年の産科ガイドラインにはこの点を報告するよというコメントが載る。これはこのデータから作られた新しいガイドラインである。21ページからの表だが、今度は産褥期の話になる。産褥期の高血圧も大事で、脳卒中、脳梗塞、貧血性脳卒

中の半分以上が産褥期に起きるのでアンケートした。Q5は分娩直後の2時間に血圧を測定するか、Q6は産褥期1日目から4日目に血圧を測定するかで、ほとんどの施設が測定している。Q8、血圧の値を医師に報告させているかというのだが、21ページにいくと、Q8で報告するかしないかスタッフの判断に任せるというのはやはり15%と、どうしてもある。このような施設は報告機能を設けていないので、設けるようにという事がこのデータからも、ひとつ得られた結果である。あとは血圧上昇の場合の薬の使い方調べた事と、産褥期あるいは退院後に家庭血圧計を使って患者の血圧を把握しているかどうかという調査を行っており、意外と行っているところが多いが、これも内科のみならず家庭血圧計を使ってくるという事になっているが、その参考のデータである。このようなデータを含めて来月に日本産婦人科学会でワークショップで発表し、次の産婦人科ガイドラインや脳卒中科の方で作る脳卒中ガイドラインにも反映される。

【質疑応答等】

特になし

【愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討】

名古屋第二赤十字病院 新生児科部長兼総合周産期母子医療副センター長 田中 太平

名古屋大学大学院 周産母子医学 教授 早川 昌弘

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 山田 恭聖

研究テーマに関しては、名古屋大学の早川先生、愛知医科大学の山田先生の3名で共同管理ということで行っている。昨年度「東海 NeoForum」というものを立ち上げ、名古屋大学の杉浦先生にホームページを作っていただいて運用していた。アメリカの方でシステムがバージョンアップした事もあって、昨年度末までホームページを開こうとするとフリーズしたりという事が非常に多かったが、杉浦先生が尽力されて、現在はエラー表示も出なくなっていて、運用はうまくいくようになった。フォーラムの方については、各施設代表1名の方だけが参加されているだけの状況なので、ディスカッションはまだ少ないが、今後、情報提供がうまく運用できるようになったので、もう少し枠を増やして他の職種の方にも参加していただいて、色々情報交換をする場を設けたいと思っている。運用としてはこれから更に幅を広げていって色々な分野と利用を深めていくという事が目的だが、初期としては5つワーキンググループが分かれていて、書いてあるように「教育」「施設情報データベース」「アンケート調査」「施設交流」「他職種交流」のワーキンググループに分かれて、それぞれのグループに対して3～4名くらいのドクターが所属する形になっている。「教育」は早川先生が、「施設情報データベース」については佐橋先生が、「アンケート調査」は加藤先生が、「施設交流」は私が、「他職種とのコラボレーション」は山田先生がそれぞれ中心となって動いている。一応このサイトについてはBBSディスカッションができるような機能になっており、研究管理情報とかMRSAの保菌者、これによる病棟閉鎖が一時期行われた事例があったが、そちらの方についてもそれが起こったという時点から解決されたという点も迅速に連絡がついたので非常に便利だったかと思う。シヨ糖の方については、今痛みの緩和という事でだんだん使われるようになってきているが、そちらの方についても情報提供や、人工呼吸器の加温加湿、GCUのベッド数の徹底化について掲載している。こちらの産科の先生方がおられますので、ちょっと情報提供として、アンケート調査の2番のところビリルビンについてだが、ビリルビンは各施設でオーダーという事で、ビルメーターE方式で測定されているところが多いかと思うが、機械については適正な構成が必要であるという事と、毛細管について純正品を使用し

なければ大きな誤差が出てくるという事を名古屋市立大学の杉浦先生の方から指摘された。安価だからといって純正品を使わないと誤差が出るため、ぜひ産科の方でも検討していただきたい。オーダーの厚生労働省の基準についてはビルメーターを使っている施設もあるし、オーダーの報告でやると、こちらの方が値が高く出るがそちらを使っていると血液学会の方でもビリルビンが計れていると言っていて、そちらも検査の違いもあるが、そちらを混在で使っているところもあるので、この場で提供したいと思う。3番にあるそれ以外の暴露のデータで学会発表や、後は小児科の講義とかバクスト、CLVの話とかB型肝炎の予防の話とか、医学会については予防報告に変わったりとか色々あるが、お母さんにラジリピンを投与すると母子感染が予防できるという杉浦先生からの報告が掲載されていたりする。今後システムのより安定化を計りながらどういう風な構成にしていっていいかという事をこれからこの会が終わった後に施設会員の方々に集まっただいてディスカッションをして、その結果を最終的な報告書としてまとめたいと思う。

【質疑応答等】

特になし

(2) 平成26年度調査・研究事業の事業計画

【愛知県における HTLV-1 母子感染の実態調査】

名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	杉浦 時雄
名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	加藤 丈典
名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	長崎 理香
名古屋市立大学大学院医学研究科	新生児・小児医学分野	伊藤 孝一
愛知県産婦人科医会会長（星ヶ丘マタニティー病院）		近藤 東臣
愛知県産婦人科医会理事（若葉台クリニック）		鈴木 正利

先程の母子感染の今年度の報告をさせていただいたが、次年度も引き続き行わせていただきたいと思います。先程田中先生からもお話があったが、昨年10月から母子感染専用の新しい方法に変更になったが、現場でまだ十分周知されていない事が予想されると思うので、その啓発も踏まえてB型肝炎の母子感染の事についても調査を行わせていただきたいと思います。

【質疑応答等】

特になし

【愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討】

名古屋第二赤十字病院	新生児科部長兼総合周産期母子医療副センター長	田中 太平
名古屋大学大学院	周産母子医学 教授	早川 昌弘
愛知医科大学	生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門	山田 恭聖

先程話をしたが、愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討という事で、24年度、25年度と引き続き来年度も応募させていただいた。同じく田中と早川先生と山田先生との3名を中心として各ワーキンググループに分かれながら、今度はもう少し幅を広げて、小児科だけではなくて産婦人科、コメディカルの人達も加わって、しかも見やすいような、参加しやすいようなホームページを作っていく情報交換を進めるという事を考えている。

【質疑応答等】

特になし

次年度分が現在2枠応募いただいているが、もう1枠あるのでテーマを考えている先生がいらしたらご応募いただきたい。締め切りは4月30日であと1年半近くあるので、もう1題調査研究事業のテーマをお考えの委員がいらしたら応募いただきたい。詳細を知りたいという事であれば、担当のところまでご相談いただければよろしいかと思うので、よろしくお願ひしたい。

5. 平成25年度特別講演・調査研究報告会の報告について

日 時：平成25年12月14日（土）15時～18時

場 所：名古屋第一赤十字病院 東棟2階内ヶ島講堂

<特別講演会>

講 師：名古屋市立大学大学院 医学研究科 産科婦人科 准教授 鈴森 伸宏 先生

演 目：「新しい出生前診断について」

<調査研究報告会>

テーマ：愛知県下における常位胎盤早期剥離症例の実態調査

名古屋大学医学部 産婦人科学 講師 小谷 友美

名古屋大学医学部 産婦人科学 助教 炭竈 誠二

テーマ：NICU長期入院患児に対する円滑な予防接種体制の確立

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 二村 眞秀

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 山田 恭聖

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 武藤 大輔

テーマ：愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討

名古屋第二赤十字病院 新生児科部長兼総合周産期母子医療副センター長 田中 太平

名古屋大学大学院 周産母子医学 教授 早川 昌弘

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 山田 恭聖

<出席者数>

40名

2. 愛知県周産期医療情報システムの運用方法について

説明資料だが、資料No.8-1から資料No.8-3である。報告事項で愛知県周産期医療情報システムの運用方法について説明する。資料No.8-1、資料No.8-2より、愛知県周産期医療情報システムの改修について説明させていただく。愛知県周産期医療情報システムの改修については、昨年度平成24年度にメールの不应需の発生から検討会を設置し、当協議会においても協議いただいている。今年度第2回の協議会に

において、一斉メールの送信先の地域分けの案を出させていただいた。そこで了解をいただいたところで、ありがとうございます。その後システムの管理として、MS ドリームと実務的な話し合いを進め、すでにご案内させていただいたが、先月2月26日に無事稼動する事ができた。まずはこの形態をもって運用していく。今後問題や改修すべき点が発生したら、その都度対応を検討させていただくのでよろしくお願いしたい。今回資料No.8-1、資料No.8-2だが、不具合が出た時に行った調査の中で、システムの使用方法が分からないという意見があった。それに対応するために、運用マニュアルの方を作成し、第2回の協議会で示させていただいた。その時いただいたご意見も加味して修正した現時点の最終案というべきものがこちらの資料No.8-1の概要、資料No.8-2が運用マニュアルの全体となる。修正点だが、ひとつは資料No.8-2の4、5ページにある受け入れ施設の連絡先一覧がある。こちらを最新のものに修正させていただいた。これが一番大きな修正箇所、7ページの操作方法のところ、緊急時に赤と青と分けて表示をというのがあったが、これは必要ないという事で削除させていただいた。以上が主な変更点である。ここまででご意見をいただけたらと思う。母体搬送基準もあるが、それは別に説明したい。

【質疑応答等】

なし

資料No.8-3、縦長A3の1枚のものをご覧いただきたい。母体搬送受け入れ可能な疾患・基準の一覧情報である。第2回の愛知県周産期医療協議会において修正された受け入れ可能な母体搬送の基準という事で、これについて必要な情報が記載されていないとか、内容が古い、古い病院のままという大変失礼なものもあり、申し訳なかったが、その後検討会を立ち上げ、掲載項目、名称などについて検討を重ねた。その後メールで検討を重ねたところである。検討メンバーとしては、松澤副会長をはじめとした本協議会の委員で産科の医師として、名古屋第一赤十字病院の古橋先生、名古屋大学の小谷先生、西部医療センターの鈴木先生、本日先程報告いただいた大野レディースクリニックの大野先生にご参加いただき、検討していただいたところである。その結果をまとめた。これが資料No.8-3である。資料No.8-3について、もう少し案の説明をさせていただく。まずタイトルであるが、母体搬送の受け入れ可能な疾患基準の一覧(案)であるが、タイトルも含め(案)とさせていただいた。それから公開の範囲については想定として考えられるのは、周産期医療情報システム参加施設と考えている。表の項目について少し説明する。各疾患・基準の報告の中で受け入れ可能なものについて右側の欄、A病院ということで例示であるが、右側に丸がついているところが受け入れ可能な場合のものになる。まずAの妊娠手術においては、対応可能な手術に丸をつけている。Bの母体要因については、妊娠手術において対応が可能としている項目については対応可能な週数を記載していただいている。例でいえば切迫早産については対応が24週からというようになっている。Bの母体要因の報告の中で、分娩の種類で分娩後出血という項目がある。これは括弧内において、弛緩性出血であるとか子宮破裂の記載を書いている。これはこの受け入れ可能な疾患に記載するか、ご意見をいただきたいためにこのような表記となっている。これについては2つ下の母体合併症のところも同じ考えである。この件についてご意見をいただきたいのでよろしくお願いしたい。PIH、妊娠高血圧症候群の報告について、痙攣対応可という項目がある。この項目を掲載するかどうかについてご意見をいただきたい。理由だが、痙攣だけでなく、患者の疾患の要因が判断しづらいために検討いただきたいためである。現段階でいただいている検討メンバーからの意見を紹介させていただく。分娩の出血の項目では、括弧内の弛緩性出血、子宮破裂等については搬送後に診断がつくものであって記載は不要ではないかという

意見がある。逆に中等量の出血は管理できるが出血性ショック状態は管理できない、出血性ショックでも管理できる、そういうのが分かるようにしていただきたいというようなご意見もあった。それから痙攣については削除していい要因ではないかという意見もあった。脳神経疾患の部分だが、脳梗塞は脳外科医師の不足のために外科手術ができない施設がある。したがって、項目枠を脳血管障害（脳卒中）というような形にしてはどうかという意見もあった。以上の意見をまとめたのがこの資料となる。形式的なものも含めて意見をいただきたいのが3つほどある。この表については各周産期母子医療センターが対応可能な疾患などをまとめさせていただいたもので、参加医療機関が搬送依頼する際に参考となるような項目としてまとめたものである。この項目についてご意見をいただきたい。先程の括弧書きのところを含めてよろしくお願ひしたい。2点目として、この表の公開先だが資料No.8-3の上にあるように、周産期医療情報システム参加施設という事を想定してはいるが、また救急搬送を行う救急隊への提供も可能と考えているが、その点についても意見をいただきたい。3点目、表の下の方にこの注意として、この一覧表は施設が対応できる基本的情報という事で注意書きをつけさせていただいた。この記載についてご意見をいただきたい。また、この3点に限らずご意見をいただけたらと思う。この表については皆様のご意見を持ち帰って検討の場にあげ、次回以降にあげたいと思う。本日をもって最終版を作るというつもりはないので、忌憚ない皆さんの意見をいただきたい。

【質疑応答等】

- ・前回石川先生が中心になって表を作ったが、非常にいい表ではあったが、切迫早産、破水、その他で週数がかかり羅列されて、同じような事がかなり煩雑となっていた面もあったので、ある程度週数を区切ってというのを第一に検討させていただいた。その後のどう括りをするかというのはかなり難しかったが、母体要因と胎児要因で一応分けさせていただいて、あくまでこれは案の段階ですので、皆さんの色んなご意見をお伺いして最終的にできるだけいい案を作っていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。
- ・もし公開するようであれば略語をなんとかしてほしい。
- 基本的には周産期医療協議会に入ってみえる施設と先程言ったように、救急隊の方がぱっと見て分かるような状況で、完全な公開はちょっと難しいと思う。
- 救急隊だと略語は分からないと思うので、略語は書いておいてもらった方がいいと思う。
- ・県の防災局、救急搬送システムの部会に参加メンバーとして出ているが、そちらとの調整は大丈夫か。たぶん必要じゃないかと思うが、妊産婦の救急搬送の事も少し。その他の事例の方が圧倒的に多いが、妊産婦のことも話題になっているものだから、防災局との調整をしっかりとっておいていただかないといけないと思う。この案ができあがった段階でいいかと思うが。
- 了解した。防災局の方も入っていただいているが、こちらからも働きかけていきたいと思う。
- ・かなり専門的な議論になると思うが、引き続きメンバーの先生にはご検討いただいて、一応成案を次回、なるべく早く成案を提示していただくという風にお願ひしたい。
- ・この表を見てぜひお願ひしたいと思うのは、以前からこういうものを出すとアップデートされないまま何年も存在するというのがあるので、どの程度でアップデートするのも検討された方がいいと思う。
- どれくらいの間隔で見直すかというのもあれだが、できるだけそのようにシステムの切り替わるころを考える。
- 周期については前の地域分けを含めたシステムの検討の時に年1回程度で提示させていただいたが、そのへんについてもっと医師の異動もあるだろうし改めて考えさせていただく。

【質疑応答等】

特になし

3. 愛知周産期医療協議会開催要綱の改正について

資料No.9-1と資料No.9-2より、愛知周産期医療協議会開催要綱の改正について説明する。今回の改正内容だが、愛知県の組織改正に伴い関係箇所を改正する必要がある。具体的には愛知県の健康担当局が現在あるが、組織の名称として、現在愛知県健康福祉部保健医療局になるという事がある。したがって第3条の3条及び第7条の第2条第2項を変更する必要がある。

【質疑応答等】

特になし

5. 愛知医大新病院移転のため搬送患者制限による患者受け入れのお願い

愛知医科大学が、新病院が完成し、この5月のゴールデンウィークの時に病院の移転をする事になり、それに伴い近隣の産婦人科の先生あるいは総合病院の先生方のところに、新生児搬送あるいは母体搬送の受け入れをしばらく制限させていただくという文書を資料として用意させていただいた。この件についてご了承願いたい。

【質疑応答等】

なし

6. 名古屋市立大学病院NICU入院制限について

入札が延びてNICUの工事が5月からとなった。NICU、GCUの拡張工事に5月から11月まで病床を少なくして運用していくので、ご迷惑をおかけするがよろしく願いたい。

【質疑応答等】

なし

7. その他

- ・名古屋大学だが、一昨年に発生してMRSAの事例の後にGCUの面積が狭いという指摘を受け、病院の方と相談して拡張工事を進める事に決まった。少し遅れていて入札が来年度となり、工事予定が決まっていないが、来年度に入札して終わり次第改装工事に入る。その時は先生方に周知するのでご協力をお願いしたい。
- ・拠点施設という事になっているが、この児童虐待専門コーディネーターが所属しているというところが、うちはあいち小児保健医療総合センターが保健部門と医療部門に分かれているが、その保健部門の中に専門コーディネーターが設置されている。もちろん受け入れが必要な場合は受け入れも考慮するが、中核的な病院で行われるのは相談連携支援が考えられるが、そのコーディネーターを利用していただくというの

が正当な筋だと思う。各診療科は、実はまだうちは三次になっていないので、二次医療施設で、将来的には三次になっていくが、各診療科についてはそれはそれで、各診療科で医療が必要かどうかをまた考える事になるので、脳神経外科は本当に手術が必要かどうかという事でたぶんお答えしてしまったんだと思うが、ぜひ困った時には保健部門のコーディネーターに連絡をいただけたらと思う。

<次回医療協議会開催について>

*平成26年度第1回周産期医療協議会は、6月6日（金）に開催する。第2回は10月24日、第3回は平成27年3月20日、いずれも名古屋第一赤十字病院で行う。

<委員の継続について>

*委員の継続について、協議会の委員は任期が2年間で平成26年5月31日までとなっている。6月以降はまた別途照会する。4月1日をもって人事異動があると思われるが、異動があった所属委員についてはその都度事務局までご連絡いただきたい。